



2018(平成30)年4月号

## はなまつり

長い冬が終わり、ようやく春の到来です。そして、新年度を迎えました。ご家族やご親戚の中には、進級や進学就職された方もいらっしゃるでしょう。新生活を迎える皆さま、おめでとうございます。

ちなみに我が家は、長女が小学年2年生に、長男は幼稚園のプレ教室に週一回ほど通うことになりました。子ども達は日増しに成長していくのに対し、わが身を振り返れば白髪も少し増え、疲労回復に時間がかかるようになりました。先日約20年ぶりに会った方に「おじさんになったね。」と言われ、少しショックでしたが、40代半ばにもなれば立派なおじさんですね。さて、4月8日はお釈迦さまのご誕生である「はなまつり」です。日本の仏教界では、全国各地で「はなまつり」をお祝いいたします。お釈迦さまは、この世でさとりを開き、その教えを広められ、お釈迦さまの説法を聞くために多くの弟子が側におられました。

ある時、お釈迦さまは、大地の砂を手のひらですくい取って弟子たちに質問されました。

「この手のひらの砂と大地にある砂とはどちらが多いでしょう？」

そうすると弟子たちは、

「それはもちろん、お釈迦さまの手のひらにある砂よりも大地に広がる砂の方が多いです。」

と答えました。

すると、お釈迦さまは静かに頷かれ、「そうですね。この世の中には、大地に広がる砂ほどの数の生き物がいる中で、ほんの手のひらにある砂ほどしかない人間といういのちを恵まれたのですよ。」

と仰せになりました。そして、お釈迦さまは次に手のひらにある砂から指の爪で砂をすくい取り、「では、この手のひらにある砂と爪の上にある砂とはどちらが多いでしょう？」

と、続けて質問されました。

「もちろん、お釈迦さまの爪の上にある砂よりも手のひらにある砂の方が多いです。」

と弟子たちは答えました。

お釈迦さまは深く頷かれ、

「この世には、手のひらにある砂のように多くの人間がいる中で、仏法が聞けるのは、ほんの爪の上の砂ほどの者しかいないのですよ。ですから、人間としてのいのちを恵まれ、聞き難い仏法に出遇えたことを大切にしながら」と仰せになりました。

礼讃文(らいさんもん)には、

「人身受け難し、今すでに受く。

仏法聞き難し、今すでに聞く。…

(中略)…大衆もろともに、至心に

三宝に帰依したてまつるべし。」

とあります。私たちは、生まれがたい人としてのいのちを恵まれ、聞きがたい遇いがたい仏法に遇い得たことを喜び、仏・法・僧の3つの宝に帰依していくことが示されています。

私たちを真実の道へと導いてくださり(仏)、仏の教えを聞き(法)、その教えに沿って生きていく人々の集い(僧)を依りどころとし、人生を力強く歩んでいくことが大切です。

当会館では、4月15日にはなまつりをお勤めいたします。どうぞ、ご家族お揃いでお参りください。

# 仏事あれこれ

## 仏事のQ&A

Q. 蠟燭の火はなぜ点ける？

A. 仏さまの智慧と慈悲を味わう

お飾りの基本となるのは灯・香・華の三具足です。それでは、これらの仏具を用いてローソクに火をつけ（点燭）、お香をたき、花を生けるのはいったいどんな意味があるのでしょうか。

ローソクに火をつけるのはなぜか？…ある人は「単にお仏壇の中を明るくするため」と思っているかもしれませんが。また、もっと現実的に「お経を読む時の明かり」と考えているかもしれません。

しかし、それでは肝心なことが抜けまわっています。というのも、お仏壇のお飾りは、単なる飾りつけではありません。私に向けてはたらいてくださっている仏さまのお心の表れとして味わうのが、お飾りなのです。

ですから、ローソクの火も、確かに私が点けるのですが、灯った火は仏さま

のお徳として味わうことが大切になってきます。

ローソクの火には二つの面があります。一つは「光」です。周囲を明るく照らすその光は、仏さまの智慧を象徴すると言われています。心の奥底までも知り尽くし、どろどろとした迷いの闇を限なく照らして真実に向かわしめる智慧の光明です。



もう一面は「熱」で、これは仏さまの慈悲を表すと味わうことができまわす。熱が氷を解かすように、大いなる慈悲の「温もり」が私の固く閉ざされ

た心を解きほぐしてくださいませ。またその炎からは、休むことなくはたらき続けてくださる仏さまの慈悲の心が伝わってくるでしょう。このように味わうと、ローソクの火がこれまで以上に輝いてくるではありませんか。

なお、ローソクの色は、一般に平常や悲しみの時は白、報恩講や七回忌以降の年忌法要および喜びの時は赤を用います。また蛇足ながら、お仏壇のためには洋ローソクよりも和ローソクの方が煤を取り除きやすく、掃除はしやすいとのことです。

### 新・仏事のイロハ』より抜粋

#### 平成30年の年回表

(ご法要のお申し込みをお忘れなく)

平成30年 年回表	
1周忌	平成29年
3回忌	平成28年
7回忌	平成24年
13回忌	平成18年
17回忌	平成14年
23回忌	平成8年
25回忌	平成6年
27回忌	平成4年
33回忌	昭和61年
50回忌	昭和44年

# 3月行事の様子

## ★東日本大震災追悼法要 3月11日(日) 14時46分～

7年前の震災により大切な方がたを亡くされたことを偲び、今私たちに何ができるかを改めて考える法要となり、当日は7名の方が参拝されました。当会館では、引き続き支援活動の一環として募金箱を設置しております。皆さまご協力よろしくお願ひいたします。

### 法要「仏説阿弥陀経」



法要中、お参りの皆さまにお焼香、募金をいただきました。



## ★春季彼岸会・奉讃会永代経法要 3月21日(水) 13時～15時

春分の日らしからぬ雪の中、21名の皆さまにお参りいただきました。法要をお勤めし、ご講師・北村信也師よりご法話をいただきました。ご法座終了後、はなまつりに向け花御堂の補修をお手伝いいただきました。

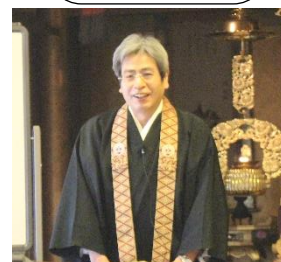
### 雪が降りしきる本堂



### 法要「仏説阿弥陀経」



### 北村信也師



### 3月の誕生日の皆さま



### 花御堂の補修



### 完成!



# 東久留米会館の 行事案内

—Schedule—

## ▶ 4月の行事予定

### はなまつい

4月15日(日) 午前10時～  
午後1時～

ご講師 南條 了瑛師  
(東京都 法重寺)

お釈迦さまのお誕生日を  
お祝いする行事です。

午前の部はお子さま対象、午後の部は大人対象  
となります。ご家族お揃いでお参りください。



### 親鸞聖人御命日お晨朝総参拝

4月16日(月) 午前7時～

月に1度、朝のお勤めにお参りしませんか？  
お供物のおさがりをプレゼントいたします。

## ▶ 5月の行事予定

### 常例法座

5月13日(日) 午後1時～

ご講師 横内 教順師  
(東京都 称名寺)

どうぞ、お気軽にお参りください。



### おみがき・境内清掃

5月20日(日) 午前10時～

6月に予定される降誕会に向けて、  
本堂の仏具をきれいに磨き、境内の清掃を  
行います。ご協力よろしくお願いたします。

東久留米会館会報 「ともしび」 第264号  
発行日 2018年4月1日  
発行者 安邊 泰教  
住所 東京都東久留米市柳窪5-8-30  
電話 042-474-6787

### 編集後記

東久留米会館に着任して4年目を迎えます。早いものですね。皆さまに支えられて今まで何とかやって参りました。どうぞこれからも、よろしくお願いたします。(安)

### 年間行事について

当会館の平成30年度の行事が決定いたしました。年間行事表を同封しておりますので、どうぞご参照ください。

### 今月のお仏飯米の進納

大嶋 弘 様 熊谷 武 様  
山下 肇 様

ありがとうございました。